

## スイートピー新品種 “スプラッシュヴィーノ” 登場

## 生産技術部

スイートピーは早春を彩る代表的な花で、やさしい色合い、かわいい花姿が人気です。イタリアのシシリー島原産で、日本には江戸時代に持ち込まれたとされ、本格的な切り花の栽培は神奈川県湘南地域で始まりました。現在でも寒川町、茅ヶ崎市、海老名市、座間市を中心にスイートピーが栽培されています。(図1)

当所では、昭和62年から品種のバリエーションを増やし、他産地との差別化が可能で収量性が高いことを育種目標として、県オリジナル品種の育成に取り組み、今までに10品種を育成しています。

今回、白色の花びら両面に刷毛目模様がある品種“スプラッシュシリーズ”の新色として模様色が濃い赤紫色の‘スプラッシュヴィーノ’ (図2) を育成しました。



図1 栽培中のスプラッシュヴィーノ

花びらのフリルが大きく、1本当たりの花数が6個と多く切り花も長いので、ボリュームのある花となります。また、1株当たりの収穫本数は20本程度と平均的な収量が得られます。

品種名は、英語で水しぶきがかかったような模様を表す“スプラッシュ”に、模様色の濃い赤紫色からワインをイメージして、イタリア語で“ワイン”を意味する“ヴィーノ”を組合せて名付けました。‘スプラッシュブルー’、‘スプラッシュパープル’そして‘スプラッシュレッド’ (図3～5) に加えスプラッシュシリーズは4品種となります。

これまでスイートピーがもっていたやさしい雰囲気だけではなく、模様の色によって「華やかさ」から「シック」なイメージまで表現でき、さらに香りも楽しむことができるため、利用の場面が広がることが期待されます。



図2 スプラッシュヴィーノ



図3 スプラッシュブルー



図4 スプラッシュパープル



図5 スプラッシュレッド

# 神奈川県茶園におけるチャトゲコナジラミの発消長の解明

## 北相地区事務所

チャトゲコナジラミ（コナジラミ科、図6）は平成16年に京都府の茶園で初めて確認された茶の新害虫で、神奈川県では平成24年に秦野市で初めて確認され、以降急速に県内に広がりました。新しい害虫であることから、本県におけるチャトゲコナジラミの発生生態を明らかにする必要がありますため、平成25年から県内各地で成虫の発消長を調査したところ、本県では年3～4回発生することがわかりました（図7）。さらに、場所による発生回数の違いを調べるため本県茶園6地点における調査を実施したところ、成虫の発生は年平均気温の平年値14℃線を境に、西側の茶園では年3回、東側では年4回であると推定されました。（図8）



図6 チャトゲコナジラミ成虫、幼虫、新芽の葉裏に群がる成虫

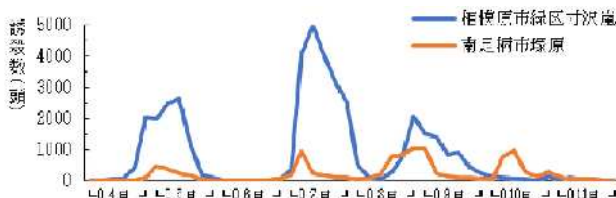


図7 神奈川県茶園におけるチャトゲコナジラミ成虫の発消長  
相模原市緑区寸沢嵐は平成25年、26年の平均値、南足柄市塚原は平成25年の値

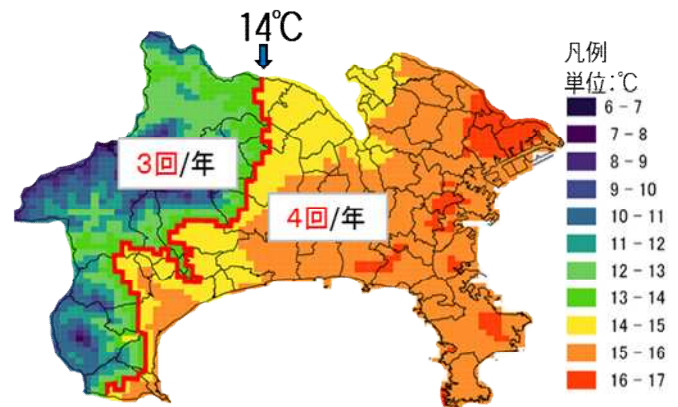


図8 年平均気温平年値に基づく神奈川県茶園におけるチャトゲコナジラミ成虫の推定年発生回数  
(年平均気温の平年値は昭和56年～平成22年の値)

## 地域伝統野菜「のらぼう菜」～収穫時期ごとに違う風味を楽しめます

### 生産環境部

セイヨウアブラナ的一种である「のらぼう菜」は、関東地方の一部の地域で栽培されている伝統野菜で、神奈川県では川崎市で栽培されています。「のらぼう菜」は初めに伸びてきた主茎部を収穫し、以降は側枝を順次収穫する、収穫期間の長い作物です。川崎市産「のらぼう菜」の収穫は2～4月ですが、時期によって収穫物の外観（図9）とともに、アミノ酸等の内容成分も変化することが明らかとなりました。

収穫初めの主茎部は、糖・アミノ酸ともに多く含まれ濃い味わいで、これに対し収穫終わり頃はアミノ酸量が減りますが、甘みをより感じられるやさしい味となります。これらの糖やアミノ酸量はナバナよりも多い傾向です（図10）。また、収穫期間を通じて、ビタミンCが多く含まれています。春の訪れから盛りまで収穫が続く「のらぼう菜」、季節の移ろいを感じながら味わってみてください。



図9 のらぼう菜の収穫物  
(左から収穫初期、中期、終期)

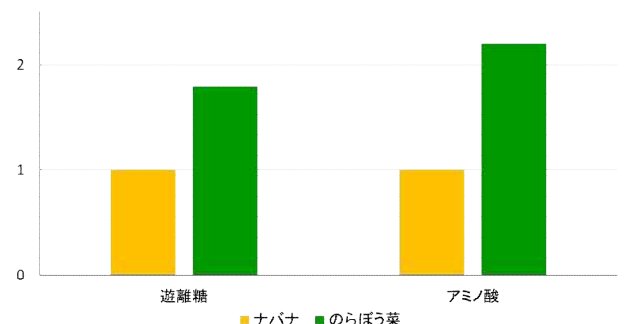


図10 ナバナとのらぼう菜の食味関連成分含量  
(ナバナに含まれた量を1とした時の相対量)

# わい性台木のヒリュウ台木を利用した‘湘南ゴールド’栽培について

## 足柄地区事務所

本県が育成した‘湘南ゴールド’は、高品質でさわやかな香りの柑橘です。しかし樹が大きくなりやすく、一般的な台木として利用されているカラタチ台では、作業性が悪くなります。そこでカラタチ台より樹が小さくなるヒリュウ台（図11）の利用を検討しています。定植後、9年間生育を調査したところ、カラタチ台の樹高は350cmになり、さらに伸びる傾向にあります。ヒリュウ台は樹齢7年目以降、240cmで安定しています（図12）。

今後も生育、収量、品質などの調査を継続します。



図11 ヒリュウ台木を使用した湘南ゴールド

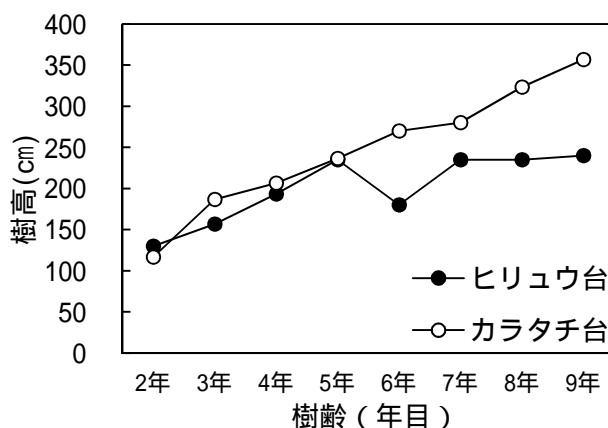


図12 台木の違いによる生育の比較

## 第68回全日本野菜品種審査会「ホウレンソウ(秋まき年内どり)」が開催されました。

### 生産技術部

平成29年12月11日に当センターで、（一社）日本種苗協会主催によるホウレンソウ（秋まき年内どり）の品種審査会が開催されました。（図13）品種審査会では、種苗会社が育成した品種（または品種になる前の系統）について公立試験研究機関が栽培し、栽培のしやすさや収穫物の品質面からどの品種・系統が優れているかを競います。今回は、26点が出品されました。

10月12日に種子をまき、保温、防風及び病害虫防除を目的として、0.6mm目合いのネットでトンネル被覆をし、栽培を行いました。種子をまいてから12月11日の品種審査会まで、どの品種・系統も順調に生育しました。

審査の結果、入賞した系統は、いずれも生育の揃いがよく、ボリューム感があり、色つやがよく、栽培のしやすさと高い商品性を兼ね備えていました。（表1）



図13 審査会の様子

表1 入賞品種・系統一覧

順位	品種・系統名	種苗会社
1等特別賞	MSS-1218	(株)武蔵野種苗園
2等	NSP-105	ナント種苗(株)
2等	C5-048	(株)サカタのタネ
2等	早生グローリー	中原採種場(株)
3等	SC5-050	(株)サカタのタネ
3等	スナイパー	カネコ種苗(株)
3等	TSP-526	タキイ種苗(株)

# 三浦半島地域における夏季休閑畑への緑肥カバークロップの導入普及

## 三浦半島地区事務所

近年、三浦半島地域では、夏作主要作物の価格低迷や労力不足により夏季休閑畑が増加しており、ゲリラ豪雨や乾燥時の強風による表土流亡が問題となっています。また、家畜ふん堆肥等の有機物は、施用労力不足や入手困難性から投入量が減少しており、畑の地力低下も懸念されています。そのため当所では、後作のダイコン、キャベツに応じた緑肥カバークロップを選定し効果を検証するとともに、その導入拡大による夏季休閑畑の解消に取り組んでいます。

当所研究課の試験や現地実証ほの成果から、ダイコン前作にはキタネグサレセンチュウの密度抑制に効果があり、かつ花が咲かないマリーゴールド‘エバーグリーン’（図14-）が適しており、キャベツ前作には生育の違いから雑草発生を長く抑制する効果があるヘアリーベッチ（図15）とライムギ（図16）の混植栽培が適していることがわかりました。（図17・18）



図14 マリーゴールド  
エバーグリーン アフリカンドール



図16 ライムギ



図15 ヘアリーベッチ

ヘアリーベッチ（晩生種）	
長所	・播種後90日以降の盛夏期には雑草を抑制できた。
短所	・初期生育が遅く、雑草が先に生育した。
ライムギ（中晩生種）	
長所	・5月上旬以降の播種ではほとんど出穂しなかった。 ・初期生育が早く、イネ科雑草も抑制した。
短所	・播種後60日以降、伸長が止まり倒伏した。

図17 ヘアリーベッチとライムギの混植の検証



図18 ヘアリーベッチとライムギの混植  
（播種後30日ライムギが先に成長、  
60日目ヘアリーベッチとライムギが成長  
90日目ライムギが倒伏）

中でも‘エバーグリーン’は、従来のマリーゴールド‘アフリカントール’（図14-）と違い花が咲かないことから、夏作物に被害を及ぼすオオタバコガ等の害虫が発生しにくく、茎が柔らかいことから土中で分解しやすいため、地域での導入が進みました。



図19 播種機「ごんべえ」での作業の様子

さらに、これまでのマリーゴールド栽培では、人力で条播きしていたため大面積での栽培は困難でしたが、地域の農業者との連携により播種機「ごんべえ」（図19）を活用した直播き栽培の技術を確認することができ、さらに導入が進んでいます。

詳しい栽培方法等は、農業技術センター三浦半島地区事務所普及指導部までお問い合わせください。

この事例は第5回農業普及活動高度化発表会全国農業改良普及支援協会会長賞を受賞しました。